

# CHOFU

## 石油暖房機

[半密閉式石油ストーブ]

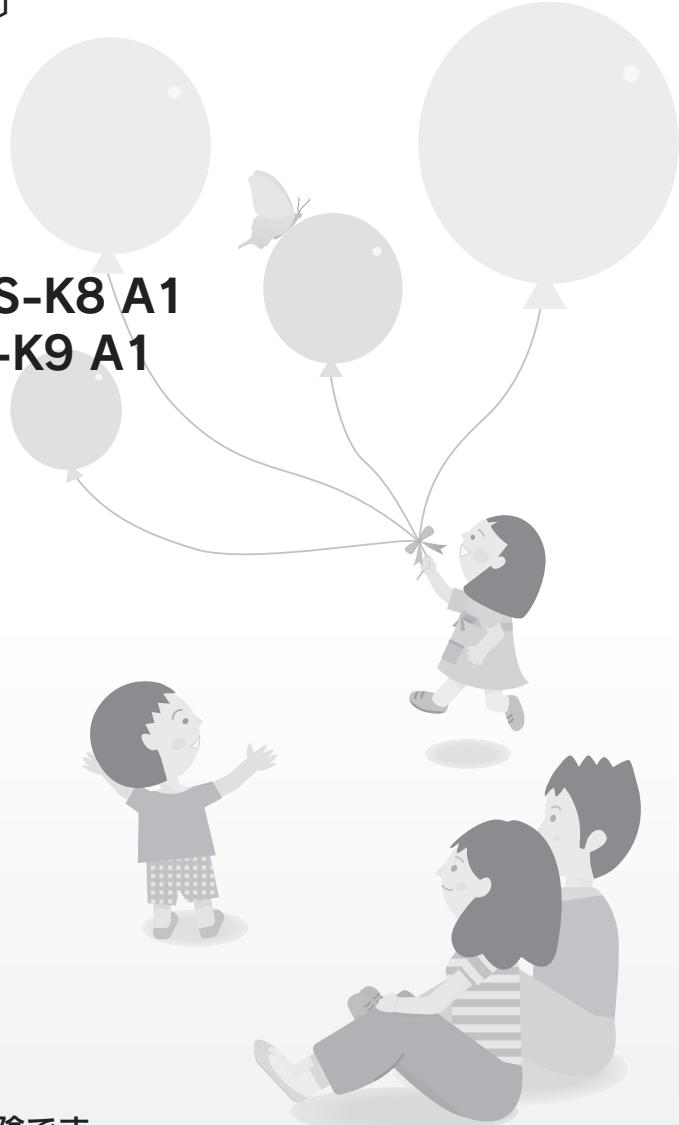
## 取扱説明書

(保証書付)

型名

**SUNPOT KSH-10BS-K8 A1**

**SUNPOT KSH-8BS-K9 A1**



お客様ご自身による工事は危険です。  
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。  
(ストーブを移設させる場合も同じです。)

このたびは長府製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は大切に保管し、おわかりにならないことや、不具合が生じたときにお役立てください。
- 保証書は販売店からお受け取りになる際に、必要事項が記入されていることを必ず確認してください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

# もくじ

## 取扱編

ご使用前に	特に注意していただきたいこと ..... 2~7 使用する場所 ..... 8 各部のなまえ ..... 9
準備	使用前の準備 ..... 10~11 ● 燃料 ..... 10 ● 給油 ..... 10 ● 点火前の準備と確認 ..... 11
使用方法	使用方法 ..... 12~14 ● 点火 ..... 12 ● 火力調節 ..... 13 ● 消火 ..... 14 ● 消火後の再点火 ..... 14 ● 使用上の注意 ..... 15 安全装置 ..... 16
点検・その他	日常の点検・手入れ ..... 17~19 定期点検 ..... 20 設計上の標準使用期間について ..... 21~22 故障・異常の見分け方と処置方法 ..... 23 部品交換のしかた ..... 24 保管 ..... 24 仕様 ..... 25 アフターサービス ..... 26 据付け・移設 ..... 27~29 配線図 ..... 30

## 工事編

据付工事	安全のために必ずお守りください ..... 31~34 開こん ..... 35 据付け ..... 35~38 煙突の取り付け ..... 39~40 試運転 ..... 40 廃棄するときの注意 ..... 40
保証書	保証書 ..... 卷末

# 取扱編

## 特に注意していただきたいこと

### 安全のために必ずお守りください

この取扱説明書には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。

表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

- ここに示した事項は  警告、 注意に区分しています。



#### 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



#### 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。



マーク

#### 禁止



マーク

#### 指示



マーク

#### 注意

# 特に注意していただきたいこと つづき

## ⚠ 警告(WARNING)

### ガソリン厳禁

- ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。  
火災の原因になります。



ガソリン厳禁

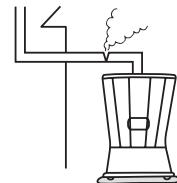


### 煙突外れ危険

- 煙突がはずれたまま使用しないでください。  
はずれていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



禁止



### 煙突閉そく危険

- 煙突がつまつたり、ふさがれたままで使用しないでください。  
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



禁止



### 衣類の乾燥厳禁

- 衣類などの乾燥には使用しないでください。  
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



衣類乾燥厳禁

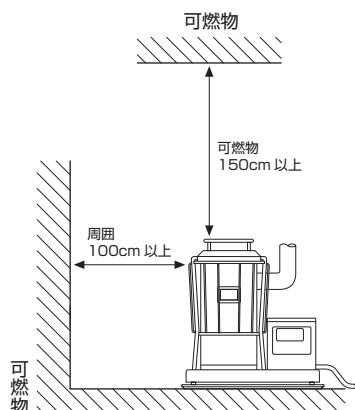


### 可燃物近接厳禁

- カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用したり、ストーブや煙突に近づけないでください。  
火災の原因になります。  
可燃物とは図に示す距離を確保してください。  
詳細は標準据付け例（27ページ）を参照してください。



必ず行う



### スプレー缶厳禁

- スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に（周囲に）放置しないでください。  
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



禁止



# 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 警告(WARNING)

### 定期点検の実施

- 定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。

点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。



必ず行う

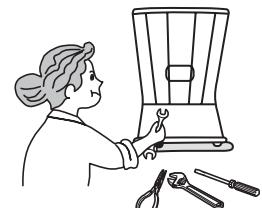


### ご自身での据付け・移設工事の厳禁

- お客様ご自身による工事は危険です。  
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。  
(ストーブを移設させる場合も同じです。)



禁止



### 改造・分解禁止

- 改造して使用しないでください。また、ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。  
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。  
改造・分解して使用しないでください。
- 改造・分解は、ストーブの安全性を損なうため、火災など思わぬ事故の原因になります。
- 故障、破損したら、使用しないでください。  
不完全な修理は、危険です。



分解禁止



### 外付け装置による遠隔操作厳禁

- スマートフォン、IT機器を使ってストーブのスイッチを操作する外付け装置（※）は安全性を確認できないため、使用しないでください。  
※操作ボタン付近に設置し、インターネット通信等を介して、操作ボタンを取り切りできる装置。



禁止



## ⚠ 注意(CAUTION)

### 給油時消火

- 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



必ず行う

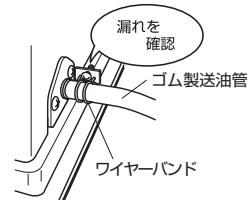


# 特に注意していただきたいこと つづき

## ⚠ 注意(CAUTION)

### 油漏れ確認

- ・油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。  
灯油が漏れないと火災のおそれがあります。



### ゴム製送油管の点検・交換

- ・ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも2~3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。

交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



### 異常・故障時使用禁止

- ・油漏れやにおい・すすの発生など異常や故障と思われるときは、使用しないでください。事故の原因になります。  
「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置してください。



### 不良灯油使用禁止

- ・変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油等）などの不良灯油を使用しないでください。  
異常燃焼のおそれがあります。



### 高温部（やけど）に注意

- ・燃焼中や消火直後は、高温部（トップガードなど）、煙突に手などふれないでください。  
やけどのおそれがあります。



### 指や異物を入れない

- ・ストーブの内部やガード内などに指や異物を入れないでください。  
けがや火災のおそれがあります。



# 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 注意(CAUTION)

### 腰をかけたり物をのせない

- ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。  
ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
- ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。  
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



禁止



### やかんのせ禁止

- やかんなどをのせないでください。  
振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。



禁止

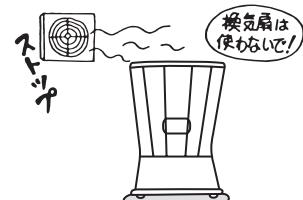


### 換気扇使用禁止

- ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。  
立消えして爆発燃焼するおそれがあります。  
また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。



禁止



### 特殊な場所での使用禁止

- ストーブは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。  
化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。



禁止

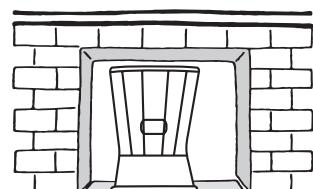


### マントルピース内据付け・ペチカへの接続禁止

- マントルピース内に据付けたり、ペチカに煙突を接続したりしないでください。  
ストーブが故障したり、火災の原因になります。



禁止



# 特に注意していただきたいこと つづき

## ⚠ 注意(CAUTION)

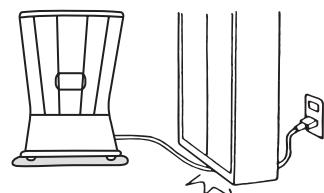
### 再点火に注意

- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで(15分位)まってから行ってください。すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。



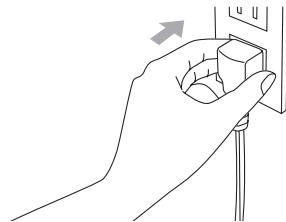
### 電源コードを傷めない

- 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。  
火災や感電の原因になります。



### 電源プラグは確実に差し込む

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。  
(また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。)  
火災の原因になります。
- ぬれた手での抜き差しはしないでください。  
感電の原因になります。



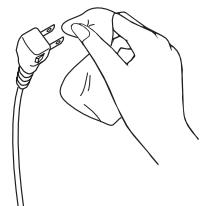
### 長期間使用しないときは電源プラグを抜く

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。  
火災や予想しない事故の原因になります。



### 電源プラグのお手入れをする

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこり(および金属物)を除去してください。  
(ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になります) 火災の原因になります。



## お願い(NOTICE)

### 灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

# 使う場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

場所の選定は「据付け場所の選定および標準据付け例」の項をお読みください。(27ページ参照)

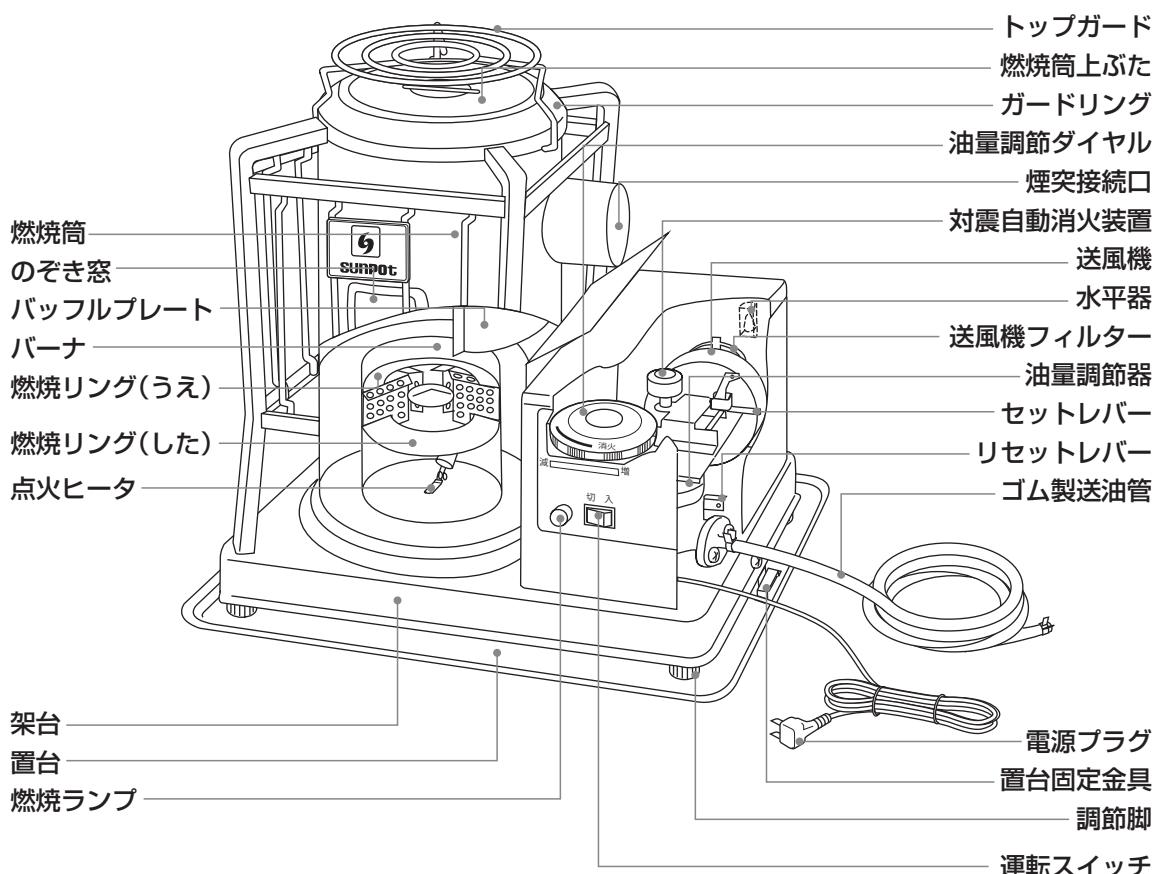
## 効果的に使用するために

- 部屋の中央に据付けると、冷気が暖められて対流しますので効果的です。

次の場所では使用しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所または換気の行えない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- マントルピース内、ペチカ
- 温室、飼育室など人のいない場所

# 各部のなまえ



# 使用前の準備

## 燃料

- 燃料は、灯油(JIS 1号灯油)を必ず使用してください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)とは、
  - ・ 変質灯油：古い灯油(ひと夏持ち越した灯油)、日当たりがよい場所に保管した灯油、温度が高い場所に保管した灯油など。
  - ・ 不純灯油：灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。また、水やごみが混入した灯油。
- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

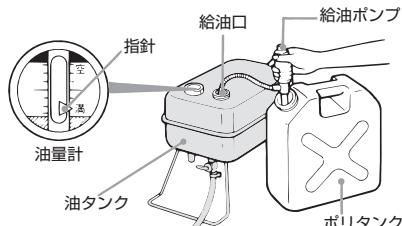
## 給油

給油はストーブを消火してから行ってください。

### 1 油タンクの送油バルブを閉める

### 2 油タンクの給油口ふたを外し、給油する

- 油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。



### 3 給油口ふたを確実に閉める

### 4 こぼれた灯油はよくふきとる



- 油タンクは空にしないでください。  
「空」まで燃焼させるとストーブよりすすが発生し、故障の原因になります。
- 給油するときは、ごみなどが入らないよう注意してください。  
燃焼不良の原因になります。

## 空気抜き

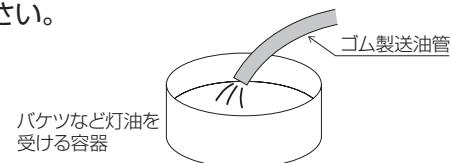
- 油タンクが空になってから給油しますと、送油経路内に空気が入り正常に送油できなくなることがあります。  
このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

### 1 送油バルブを閉める

### 2 ストーブからゴム製送油管をはずす

### 3 送油バルブを開けて、灯油が連續して流れることを確認する

- 灯油がこぼれないように容器を用意してください。



### 4 送油バルブを閉めてゴム製送油管をもとどおりに取り付ける

# 使用前の準備

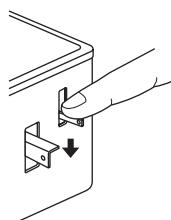
つづき

## ■点火前の準備と確認

### 1 対震自動消火装置のセット

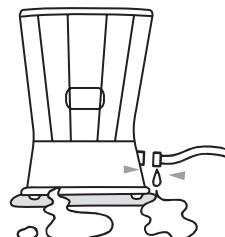
- ・対震自動消火装置をセットしてください。  
この操作を忘れるは、油が流れず点火できません。

セットレバーをいっぱいに押し下げる。



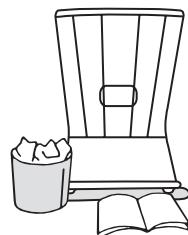
### 2 油漏れの確認

- ・ゴム製送油管やストーブの置台に油漏れがないか確認してください。  
万一、油漏れしている場合は送油バルブを閉め、必ずお買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。



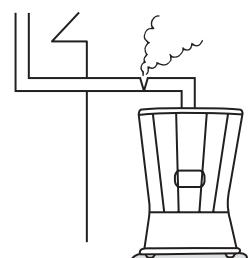
### 3 ストーブ周囲の確認

- ・ストーブの周囲および煙突の周囲に引火物や可燃物がないか確認してください。  
火災や予想しない事故が発生するおそれがあります。



### 4 煙突の接続の確認

- ・煙突が正しく接続されているか確認してください。  
はずれていますと運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。



### 5 電源プラグの接続

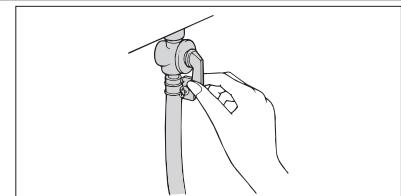
- ・電源プラグはコンセント(家庭用 AC100V)に差し込んであるか確認してください。



# 使用方法

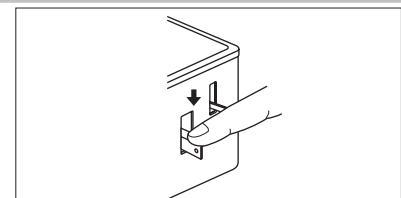
## 点火

### 1 油タンクの送油バルブを開く



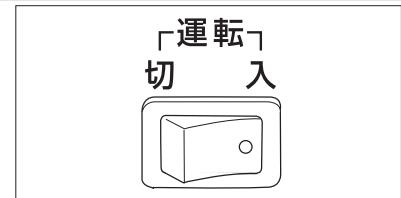
### 2 リセットレバーをセットする

- リセットレバーを「カチン」と音がするまでいっぱいに押し下げます。



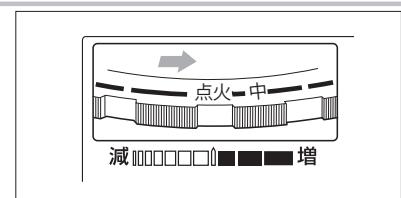
### 3 運転スイッチを「入」にする

- 燃焼ランプが点滅します。



### 4 油量調節ダイヤルを「点火」位置に合せる

- 約7分30秒後、燃焼ランプが点灯に変わり、「点火」位置の油量で燃焼します。



- 初めて使用する場合、油タンクより油量調節器内へ油が流れてくるまで時間がかかりますので、2~3分放置後点火操作を行ってください。
- 点火の際には、のぞき窓より着火を確認してください。着火しない場合は、油タンクの送油バルブの開放やリセットレバーのセットを確認してください。
- 煙突の設置条件が悪いと、春先や秋口の気温が高い時期に点火時においがすることがあります。煙突が正しく設置されているか点検してください。



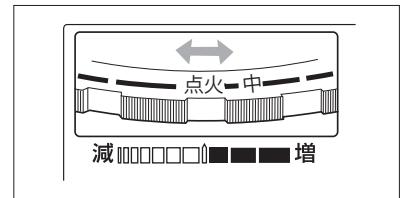
- バーナ内に油をためてしまったときは、絶対点火しないで、古い布きれなどで油を吸いとってから点火してください。
- バーナ内に油をためたまま点火したときは、あわてずに油量調節ダイヤルを「消火」にし、自然に火力が小さくなるのをまってください。

# ■ 使用方法 つづき

## ■ 火力調節

### 1 油量調節ダイヤルをお好みの位置に合せる

- 燃焼ランプが点灯に変わってから行ってください。



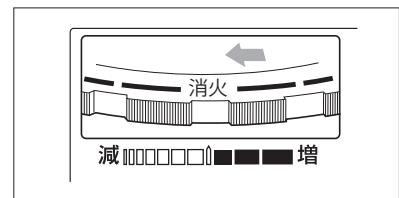
- 「大」から「微小」にする場合、いったん「中」にして炎が下がってから「微小」にしてください。
- 燃焼中に炎がかたよったり、また上下変動することがありますですが、異常ではありません。



- 油量調節ダイヤルを「微小」から「消火」の間に合せての使用は絶対にしないでください。

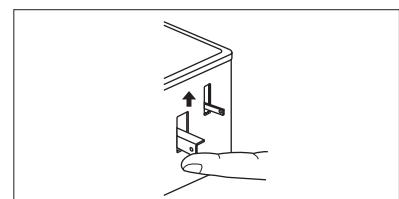
## ■ 消火

### 1 油量調節ダイヤルを「消火」位置にもどす

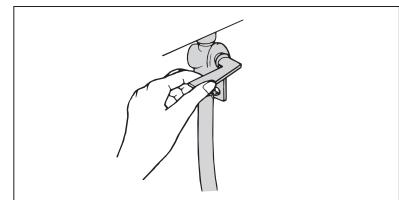


### 2 リセットレバーを上げる

- リセットレバーを“カチン、”と音がするまで上げます。

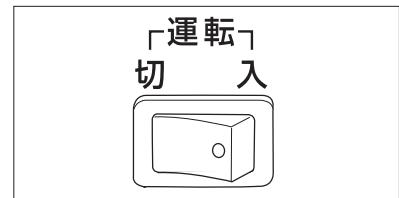


### 3 油タンクの送油バルブを閉じる



### 4 運転スイッチを「切」にする

- 火が消えたのを確認してから、運転スイッチを「切」にします。
- 燃焼ランプが消灯し、送風機ファンが停止します。



- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグは送風機ファンが停止してから抜いてください。
- 電源プラグをコンセントから抜いて運転を停止しないでください。  
ストーブが過熱し、故障の原因になります。
- お出かけになるときは必ず消火してください。

## ■ 消火後の再点火

- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから行ってください。  
すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。

# 使用方法 つづき

## ■ 使用上の注意

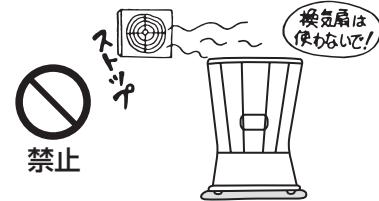
### 高温部に注意

- ストーブの上面・ガードや煙突などは高温です。やけどの注意してください。
- 特に子様をストーブに近づけないでください。保護ガード(関連部材)のご使用をおすすめします。



### 換気扇使用禁止

- ストーブを使用している時は室内の換気扇を使用しないでください。立消えして爆発燃焼するおそれがあります。また、換気口・給気口は常に確保し、物などでふさがないでください。



### 煙突閉そく危険

- 煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しないでください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



### 再点火に注意

- 消火後すぐ再点火する場合は、ストーブが冷えるまで（15分位）まってから行ってください。すぐ再点火しますと爆発燃焼するおそれがあります。



### 雷時の注意

- 雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。
- シーズンオフのように長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。
- トップガードは地震などにより、ストーブに可燃物が落下したときに火災になるのを防止するために取り付けたものです。やむをえず取りはずした場合には必ず元の状態に取り付けてください。
- ストーブや煙突には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。ストーブや煙突に熱交換器などを取り付けると排ガス中の水分が結露しやすくなり、結露水が凍結して煙突をふさぎ、不完全燃焼や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。また、ストーブの寿命を短くする原因にもなります。
- ストーブ周囲は、ふく射熱が強いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。

# 安全装置

- ・異常が生じたとき、自動的に作動する装置です。

- ・安全装置が作動した場合、下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ●作動の原因	作動した時の現象	処置の方法
<b>対震自動消火装置</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●地震(震度5程度以上)のとき</li><li>●強い振動や衝撃を受けたとき</li></ul>	自動的に消火します。	消火操作を行いストーブの周囲や煙突のはずれやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認し、ストーブが冷えるまで(15分位)まってから、対震自動消火装置のセットレバーを押し下げ、再点火操作してください。
<b>停電安全装置</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●停電したとき</li><li>●電源プラグが抜けたとき</li></ul>	自然通気で燃焼します。	再通電されると通常燃焼となります。

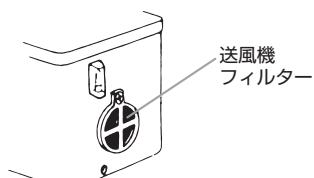
# 日常の点検・手入れ

## ■点検・手入れのときの注意

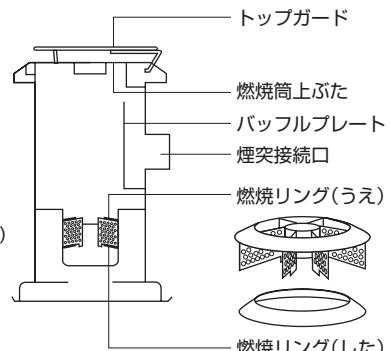
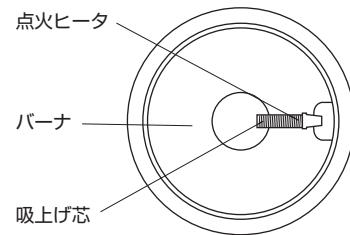
- 必ずストーブの運転を停止し、ストーブが冷えた状態で行ってください。

## ■点検・手入れの必要項目、時期、方法

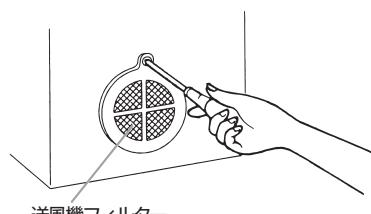
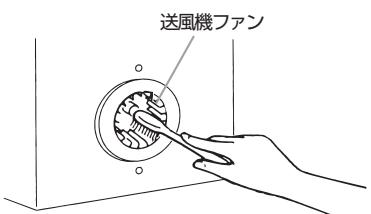
時期	点検・手入れ項目	方法
シーズンはじめ	煙突	<ul style="list-style-type: none"><li>煙突の接続箇所がはずれていなければ、また支え金具や支え線で固定されているか点検します。</li><li>煙突が鳥の巣や紙などでふさがっていないか点検します。</li><li>煙突が腐食などで穴があいたりしていないか点検します。</li></ul>
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	<ul style="list-style-type: none"><li>ゴム製送油管や置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。</li></ul>
	周囲の可燃物・引火物	<ul style="list-style-type: none"><li>ストーブの上や周囲・煙突の周囲に可燃物、引火物がないか点検します。</li></ul>
	排ガスの漏れ	<ul style="list-style-type: none"><li>排ガスのにおいや、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていますと危険です。</li></ul>
	煙突	<ul style="list-style-type: none"><li>煙突内や煙突トップが雪や氷でふさがっていないか点検します。</li><li>煙突が落雪などで倒れていなければ点検します。</li></ul>
週に1回以上	送風機フィルター	<ul style="list-style-type: none"><li>ストーブ背面の送風機フィルターに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。</li></ul>
月に1回以上	ストーブ外観  安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。	<ul style="list-style-type: none"><li>ストーブや置台などのほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとります。</li><li>シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。</li></ul>



時期	点検・手入れ項目	方法
適時	<p>バーナ・燃焼リング バッフルプレート</p> <p>安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。</p> <p>(※) バーナ内に油をためてしまった場合は古い布きれなどで吸い取ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バーナ内に油をためてしまったとき<sup>(*)</sup>や、バーナにすすが付いて炎がふぞろいになったとき、バーナの底にすすやカスがたまって着火がおそくなったときは、次のようにして取り除いてください。</li> </ul> <p><b>1 燃焼筒上ぶたをはずす</b></p> <p><b>2 バーナ内の燃焼リングを取り出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● すすが付いている場合は、取り除きます。</li> </ul> <p><b>3 バーナ内部のすすをドライバーなどでかき落とし、掃除機などで吸い取る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● すすを取り除くとき、点火ヒータの発熱線や吸上げ芯をいためないようにしてください。</li> </ul> <p><b>4 点火ヒータの吸上げ芯がバーナの底に付いていることを確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ヒーター金網押えがはずれた場合、図のように取り付ける。</li> </ul> <p><b>5 燃焼リング（うえ）・（した）を取り付ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃焼リング（うえ）のつめが燃焼リング（した）の穴に全て収まり、図のように水平に取り付いているか確認する。</li> </ul>  <p><b>6 バッフルプレートが焼損、変形していないか点検する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● バッフルプレートの取り付けは36ページを参照してください。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃焼リング（うえ）・（した）はまちがわないよう正しく取り付けてください。 逆に取り付けたり、水平に取り付いていないと、異常燃焼の原因になります。</li> <li>● 燃焼リング・バッフルプレートが変形や焼損していますと、燃焼が悪くなります。 そのような場合は、新しいものと交換してください。 交換部品はお買い求めの販売店に依頼してください。</li> </ul>



# 日常の点検・手入れ つづき

時期	点検・手入れ項目	方法
1シーズンに2～3回	送風機ファン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 送風機ファンに付いたほこりを次のように取り除いてください。</li> </ul> <p><b>1</b> 送風機フィルターを固定しているねじ(1本)をゆるめ、取りはずす</p>  <p><b>2</b> 送風機ファンに付いたほこりをブラシなどで落とし、掃除機で吸い取る</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 送風機ファンに付いたほこりを取り除くとき、ファンを変形させないでください。異常音や異常燃焼の原因になります。</li> </ul>
	ゴム製送油管	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゴム製送油管にひび割れが生じていないか点検します。</li> <li>● ゴム製送油管は経年変化しますので3年に1度新しい物に交換してください。</li> <li>● 交換はお買い求めの販売店に依頼、または最寄りの工場・支店・営業所にご相談ください。</li> </ul>
	電源プラグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源プラグにほこりが付着していないか点検します。</li> </ul>
給油のとき	油タンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検します。</li> <li>● 油タンク内の水抜き、ストレーナ(ろ網)の掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。</li> </ul> 

# 定期点検

本機器は使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、修理資格者〔(一財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕による定期点検を受けてください。

## 定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。

ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製錬工場など)、温泉地域などでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

### 定期点検

定期点検は専門の技術者が、設置状態、煙突まわりの点検・安全装置および運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検などを行います。

安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

### お申し込み先

お客様→お買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所。

### 定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所にご確認ください。定期点検の結果、部品交換および修理などが必要な場合は、処置内容および費用についてお客様にご相談申し上げます。

## 定期点検の内容

定期点検の内容	項目	
設置状態、煙突まわりの点検・確認	● 製品の設置・使用状態 ● 煙突接続とつまり	● 送油経路部の油漏れ(ゴム製送油管含む)
安全装置および運転動作の点検・確認	● 安全装置の働き ● 操作部品や動く部品の動き	● 運転動作の点検
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	● 点火ヒータなどの点検 ● バーナ・燃焼リング・バッフルプレートなどの点検 ● 送風機の点検 ● のぞき窓の点検	● 各種パッキンの点検
製品の清掃・整備	● 本体内 ● 送風機ファン	● 油タンクの水抜き

# 設計上の標準使用期間について

## 設計上の使用期間の表示と説明

- 本製品は設計上の標準使用期間を8年と算定しており、適切な点検を行わず、この期間を超えて使用すると経年劣化による発火・けが等の事故の原因になるおそれがあります。
- 設計上の標準使用期間とは、製品ごとに設定した設計的に想定した標準的な使用（下記の＜設計上の標準使用期間の算定の根拠＞参照）による使用期間をいいます。
- 設計上の標準使用期間を過ぎての製品の使用については、経年劣化により安全性が損なわれ、ひいては重大事故に至るおそれがあります。そのため設計上の標準使用期間は、使用者が不具合なく製品を使用していても点検・取替えの検討を開始するための目安（指針）とするものです。また、設計上の標準使用期間は、無料保障期間とは異なります。

## 設計上の標準使用期間の算定の根拠

本製品の設計上の標準使用期間は、製造年月を始期とし、JIS S 2073の「家庭用密閉燃焼式石油温風暖房機の標準使用条件、標準加速モードおよび試験条件」に基づき右表の標準使用条件を想定し、設計上の標準使用期間を設定しています。

### 標準使用条件

項目	条件
1. 年使用時間	2,500時間
2. 換気回数	1回／h
3. 使用条件	—
・電源電圧／周波数	100V／50Hz/60Hz
・暖房設定温度	温度制御なし

## 標準的な使用条件と異なる使用をした場合の留意点

- 製品の使用条件または使用頻度が、その根拠となった数値よりも高い場合
  - 製品が目的以外の用途で使用された場合
  - 標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合
  - 業務用（ホテル・喫茶店・理髪店・美容院・飲食店・事務所等）で使用した場合
  - その他経年劣化を特に進める事情が存在する場合
- 上記のような使用をした場合は、設計上の標準使用期間よりも短期間で製品が経年劣化し、安全上支障が生じるおそれが多くなります。

## 清掃等の日常的に行うべき保守の内容とその方法

- 製品を安全にご利用いただくためには、お客様においても日常的に清掃や安全確認を行っていただくようお願いします。
- 点検・手入れは必ず消火後、電源プラグを抜き、製品が冷えてから行ってください。
- 点検・手入れの際は手袋などの保護具を着用してください。
- 部品の分解・整備は絶対にしないでください。
- 油漏れなどの異常がある場合は、販売店または最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
- 詳しくは日常の点検・手入れの項を参照してください。

## あんしん点検に関する事項

設計上の標準使用期間の8年になりましたらあんしん点検（有料）を受けてください。

- 点検料金について
  - ・点検費用はお客様にご負担いただくことになります。
  - ・点検料金は技術料、出張料などを合計した金額となります。
- 各地域の点検などに関するお問い合わせは、お買い求めの販売店、または取扱説明書の裏表紙記載のフリーダイヤルにお問い合わせください。
- あんしん点検では、その時点での技術基準に適合しているかを確認するもので、その後の安全を担保するものではありません。また、あんしん点検は整備ではありません。
- あんしん点検の結果、整備・修理が必要となった場合は、別途整備・修理費用が発生します。
- あんしん点検後、整備に必要な部品は補修用性能部品とは異なることがあります。
- あんしん点検の結果、修理が必要となった場合は修理が完了するまで使用できません。

# 故障・異常の見分け方と処置方法

異常が生じた場合は下表を参考して、お客様ご自身で処置してください。

現象	燃焼ランプが点灯しない	点火しない	出して燃える 炎が立上がり、黒煙を	においがする	使用中に消火する	処置	参照ページ
原因							
電源プラグがコンセントから抜けている	●	●				電源プラグをコンセントに確実に差し込む	11
油タンクに灯油がない		●			●	油タンクに給油する	10
油タンクの送油バルブが閉じている		●			●	送油バルブを開く	12
油量調節器の安全装置が作動している		●			●	リセットレバーをセットする	12
煙突がはずれていたり、ふさがっている			●	●		接続しなおす 掃除する	17
送風機フィルターやファンにほこりが付着している			●			掃除する	17 19
燃焼リングの取り付けが誤っている			●			取り付けなおす	18
燃焼リングが焼損・変形している			●			交換する	18
地震や強い衝撃があった					●	対震自動消火装置のセットレバーを下げる	16

以上の方で点検し、処置してもなおならないときは、使用を中止しお買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所へご相談ください。

修理をお申しつけのときには故障内容をできるだけ詳しくご連絡ください。

# 部品交換のしかた

- ・経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
- ・異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所にお問い合わせください。個人での不完全な修理は危険です。
- ・修理資格者[((一財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など)が修理いたします。

## 消耗、劣化しやすい部品

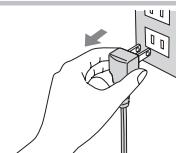
項目	内容
使用時間により交換が必要な部品	点火ヒータ・燃焼リング・バッフルプレート
環境により劣化しやすい部品	送風機・ゴム製送油管
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	油量調節器・電磁弁

## 保管(長期間使用しない場合)

- ・長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

### 1 電源プラグをコンセントから抜く

- ・ぬれた手で触らないでください。  
感電のおそれがあります。



### 2 ストーブ外装、送風機フィルター、送風機ファンの掃除をする (17・19ページ参照)

### 3 油タンクの送油バルブを閉じる

### 4 ストーブは据付けたまま保管する

- ・どうしても取りはずして保管するときは、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- ・次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

# 仕様

型式の呼び		KSH-10BS-K8	KSH-8BS-K9
種類		ポット式、強制通気形、自然対流形	
点火方式		電気点火	
使用燃料		灯油(JIS1号灯油)	
燃料消費量	最大	9.26kW (0.9L/h)	10.9kW (1.06L/h)
	最小	1.85kW (0.18L/h)	1.85kW (0.18L/h)
発熱量	最大	33,340kJ/h	39,260kJ/h
	最小	6,670kJ/h	6,670kJ/h
熱効率	最高	67.1%(目盛大)	67.6%(目盛大)
	最低	59.4%(目盛微小)	63.1%(目盛微小)
暖房出力	最大	6.21kW	7.37kW
	最小	1.10kW	1.17kW
外形寸法		※高さ535mm 幅560mm 奥行390mm(置台を含む)	※高さ588mm 幅560mm 奥行390mm(置台を含む)
質量		16.8kg	18.8kg
電流ヒューズ		筒型 20mm 3A 1個	
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz	
定格消費電力		点火時 96/95W 燃焼時 18.5/17W	
待機時消費電力		1.3/0.6W	
電源コードの長さ		約 2m	
煙突の呼び径		106 (3寸5分)	
標準ドラフト値(最大燃焼時)		- 13.7Pa (- 1.4mmH <sub>2</sub> O)	
排気温度		580°C (最大燃焼時)	590°C (最大燃焼時)
安全装置		対震自動消火装置、停電安全装置	
付属品		置台(1)、置台固定金具(2)、ゴム製送油管(2.5m)(1)、ワイヤーバンド(2)、トップガード(1)、4×10タッピンねじ(3)、取扱説明書(1)	

※外形寸法にトップガードの高さは含みません。

トップガードの高さは52mmです。

# アフターサービス

## ■保証について

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

## ■修理を依頼するときについて

「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って点検してください。処置してもなおらないときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理いたします。

ご連絡していただきたい内容	
ご住所	
おなまえ	
電話番号	
製品名	半密閉式石油ストーブ
型名	KSH-10BS-K8/KSH-8BS-K9
お買い上げ日	年 月 日
故障又は異常の内容	できるだけ詳しくお知らせください。
訪問ご希望日	

点検・その他

- 保証期間が過ぎているときは、販売店にご相談ください。  
修理によって使用できる場合は、ご希望により有料修理いたします。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店または最寄りの工場・支店・営業所へお問い合わせください。

## ■補修用性能部品について

- 半密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後10年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

# 据付け・移設

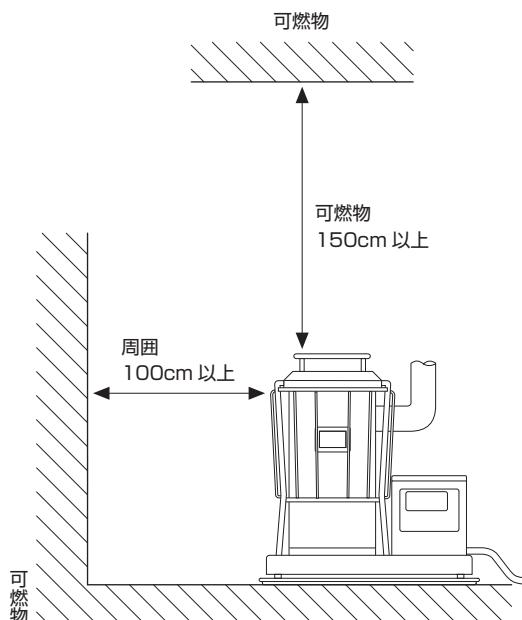
## ■据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

## ■据付け場所の選定および標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

【ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離】



- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください。

## ■据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事編の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

点検箇所	点検項目
ストーブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ストーブ周りは必要な空間がありますか。</li> <li>●床面の不安定な場所に据付けてありませんか。</li> <li>●ストーブの上に不安定な物をのせた棚などはありませんか。</li> <li>●密閉された部屋では、空気取入口を設けてありますか。</li> <li>●電源コードは煙突などの高温部に触れていませんか。</li> <li>●電源コンセントは適切な位置にありますか。</li> </ul>
油タンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。</li> <li>●油タンクとストーブとの間は、防火上有効な壁などがある場合を除き、2m以上離れていますか。</li> <li>●ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。(屋外銅配管)</li> </ul>
煙突	<ul style="list-style-type: none"> <li>●煙突は呼び径106（3寸5分）のものを使用していますか。</li> <li>●煙突の周囲や貫通部は、基準寸法が守られていますか。</li> <li>●煙突にカーテンなど、燃えやすいものが接触することはないですか。</li> <li>●煙突のはずれ、ゆるみはありませんか。</li> <li>●煙突は壁や天井に支え金具などで固定されていますか。</li> <li>●屋外の煙突は、風や振動で倒れないよう支え金具などで固定してありますか。</li> <li>●排ガスは屋外へ排気されていますか。</li> </ul>

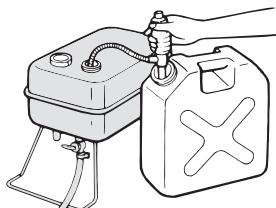
# ■ 据付け・移設 つづき

## ■ 試運転

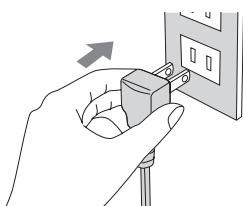
試運転は、販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

### 運転準備

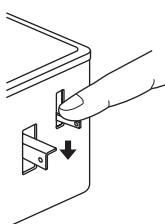
#### 1 油タンクに給油する (10ページ参照)



#### 2 電源プラグをコンセントに差し込む



#### 3 対震自動消火装置のセットレバーをいっぱいに押し下げる



### 確認

- 油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れがないか。
- 置台の上などに油がこぼれていないか。
- ゴム製送油管内に空気がたまっていることがありますので、ゴム製送油管を振って空気を抜いてください。

### 運転

#### 1 リセットレバーをセットする

- リセットレバーを『カチン、と音がするまでいっぱいに押し下げます。

#### 2 運転スイッチを「入」にする

- 燃焼ランプが点滅します。

#### 3 油量調節ダイヤルを「点火」位置に合わせる

- 約7分30秒後、燃焼ランプが点灯に変わり、「点火」位置の油量で燃焼します。

### 消火

#### 1 油量調節ダイヤルを「消火」位置にもどす

#### 2 リセットレバーを上げる

- リセットレバーを『カチン、と音がするまで上げます。

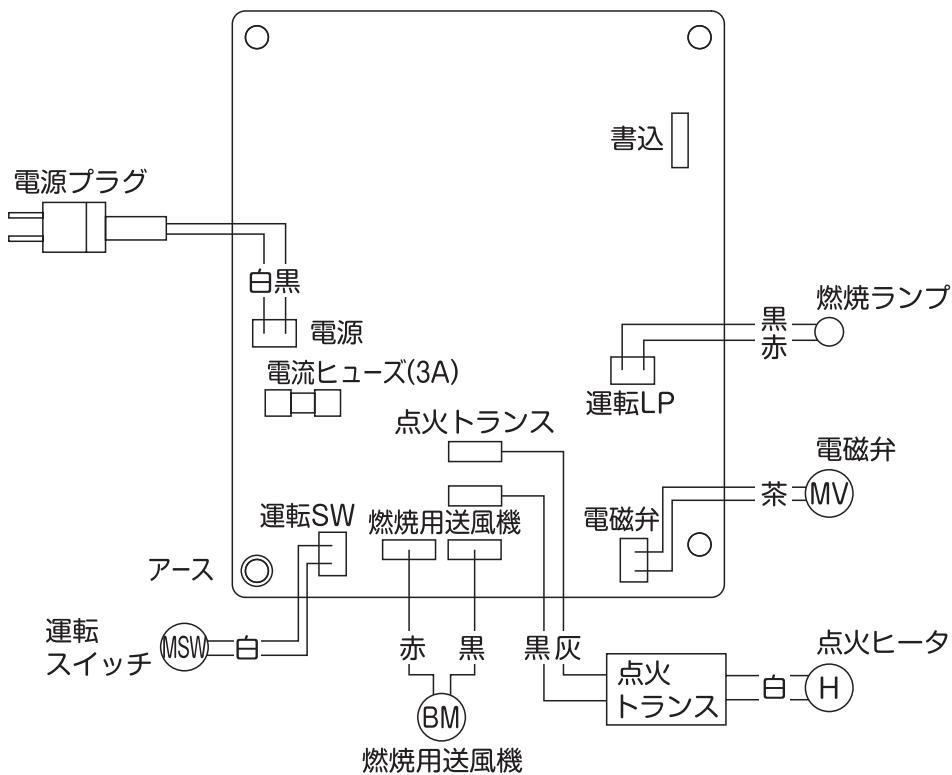
#### 3 運転スイッチを「切」にする

- 火が消えたのを確認してから、運転スイッチを「切」にします。
- 燃焼ランプが消灯し、送風機ファンが停止します。



- ストーブより煙やにおいが出ることがあります。燃焼筒の塗装やパッキン類が焼けるため異常ではありません。最大燃焼で数十分運転すると消えますので、部屋の換気をしながら試運転してください。

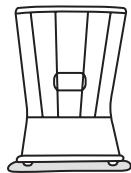
# 配線図



# 工事編

■設置工事の前に、この工事編をよくお読みのうえ、正しく据付けてください。

工事は  
販売店へ！



## 安全のために必ずお守りください

この工事編には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。

表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

- ここに示した事項は 警告、 注意に区分しています。



### 警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



### 注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。



マーク

禁 止



マーク

指 示



マーク

注 意

# ⚠ 警告

据付けや移設は、販売店または据付業者が行ってください。

- お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。



必ず行う

据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守って行ってください。



必ず行う

## 屋内排気禁止

- 屋内に排気すると、排ガスが室内に充満して危険です。  
必ず屋外に排気してください。



禁止

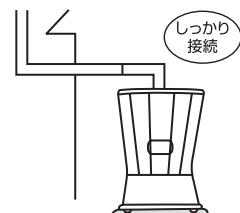


## 煙突を確実に接続

- 煙突を確実に接続し、しっかりと固定してください。  
風、振動、衝撃などではずれたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



必ず行う



# ⚠ 注意

次の場所には据付けない

火災や予想しない事故の原因になります。



禁止

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入口のない場所または換気の行えない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- マントルピース内、ペチカ
- 温室、飼育室など人のいない場所

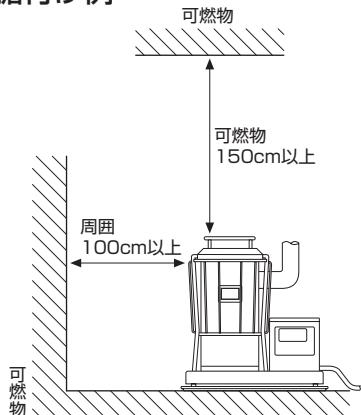
# ⚠ 注意

## 可燃物との距離を離す

### ■標準据付け例



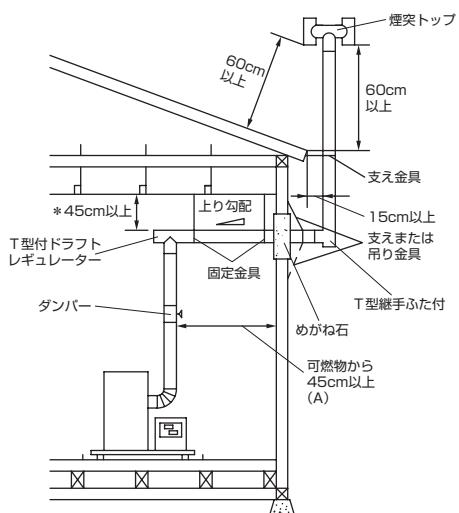
必ず行う



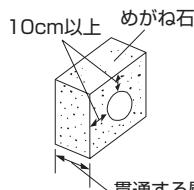
- ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。
- 左図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も左図離隔距離としてください。

### ■ストーブに付属された置台の上に据付けること。

### ■煙突の標準取り付け例



- 煙突の先端から水平距離1m以内に建物の軒がある場合は、その軒から60cm以上高くすること。煙突の先端1m以内に建物の開口部(窓)がないこと。
- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用してください。
- A寸法は45cm以上と示していますが、ストーブと可燃物との離隔距離でも規制されます。



地区により異なることがあるので火災予防条例を参考する。

注 \* 45cm以上の寸法は、煙突が本体から1.8mを超える場合、15cm以上とする。煙突は、固定金具で1.5~2m間隔に固定すること。

- 小屋裏、天井裏などにある部分は金属以外の不燃材料で防火上有効な被覆を行ってください。
- 可燃性の壁、天井、小屋裏、天井裏などを貫通する部分およびその付近では煙突の接続はしないでください。
- 不燃物の場合でも性能維持のため、上図離隔距離としてください。

### ■煙突の固定

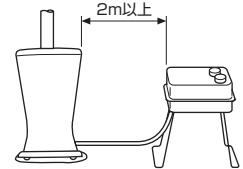
- 煙突は、風や振動などで倒れないよう支え金具や支え線などで固定してください。
- 煙突は、1.5~2mおきに固定金具で固定し、自重を支える部分は支えまたは吊り金具で堅固に支持してください。

# 安全のために必ずお守りください

## ⚠ 注意

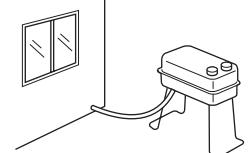
### 油タンクとの距離を離す

- 油タンクはストーブより 2m 以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。  
据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けること。



### ゴム製送油管の屋外使用禁止

- ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。  
ひび割れを生じて油漏れの原因になります。



### ストーブ交換時にはゴム製送油管を交換

- ストーブ交換時には既設のゴム製送油管を必ず交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも新しいものに交換してください。  
交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



必ず行う

### 送油管取り付け時の確認

- 既設の油タンクを使用する場合は、送油管をストーブに取り付ける前に、油タンクからの灯油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水、ごみ、さびなどがないことを確認してから取り付けてください。  
油タンク内に水、ごみ、さびなどがたまっていますと、ストーブの故障の原因になります。



必ず行う

### 油漏れ確認

- 油タンク・ゴム製送油管・接続部およびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。  
灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



必ず行う

### 煙突の点検

- 据付けが終わりましたら、もう一度点検してください。  
次のような取り付けは、危険であったり、異常燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

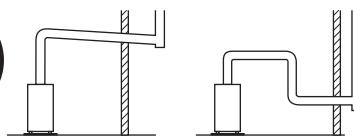


必ず行う

### ■下り勾配、下向き曲がり禁止



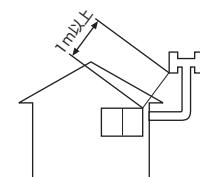
禁止



### ■トップと建物（隣家を含む）の開口部（窓など）は1m以上離れていること



必ず行う



# 開こん

工場出荷時燃焼試験を行っていますので、燃焼リングなどが一部変色していますが異常ではありません。

- 本体のほかに次のものが用意されています。梱包材といっしょに捨てることのないよう点検し、ご使用ください。

部品名	個数	使用方法
置台	1	ストーブの下に敷きます。
置台固定金具	2	置台とストーブの固定に使用します。
ゴム製送油管	1	油タンクからストーブへ油を送るために使用します。
ワイヤーバンド	2	ゴム製送油管の接続部の固定に使用します。
トップガード	1	ガードリングに取り付けます。
4×10タッピンねじ	2	置台固定金具をストーブに固定するのに使用します。
4×10タッピンねじ	1	煙突をストーブに固定するのに使用します。
取扱説明書	1	

## 据付け

### ■ 据付け場所の選定

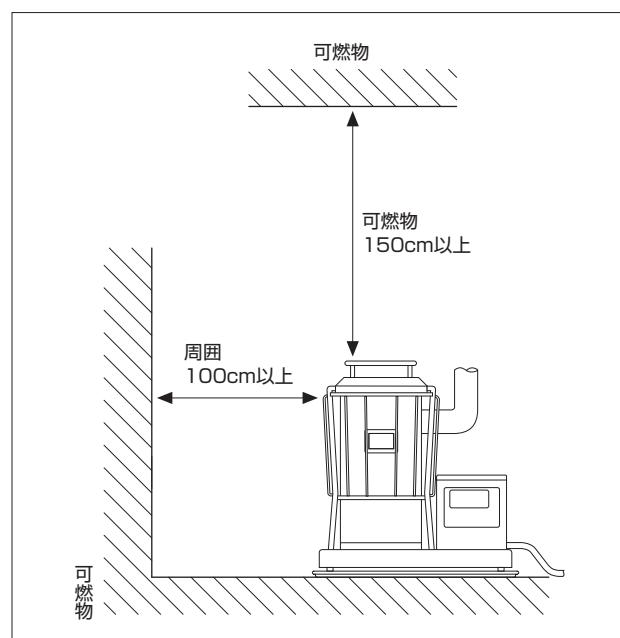
- ストーブの据付けは、火災予防条例に従ってください。

図に示す寸法以上離して、次のような点に  
ご注意ください。

- 燃えやすいものや障害物のない場所。
- 水平で安定のよい、しっかりした場所。
- 電源は家庭用AC100Vの電源コンセントをご  
使用ください。(電源コードの有効長さは約2m  
です。)



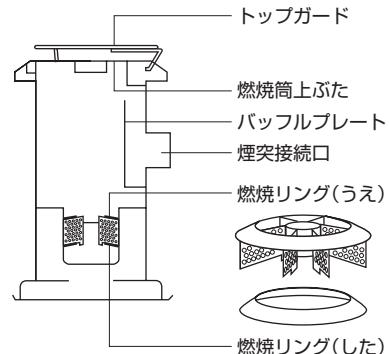
- マントルピース内に据付けたり、ペチカ  
に煙突を接続したりしないでください。  
ストーブが故障したり、火災の原因にな  
ります。



## ■部品の取り付け状態の確認

- 部品は正しく取り付けられていないと異常燃焼します。正しく取り付けられているか確認してください。

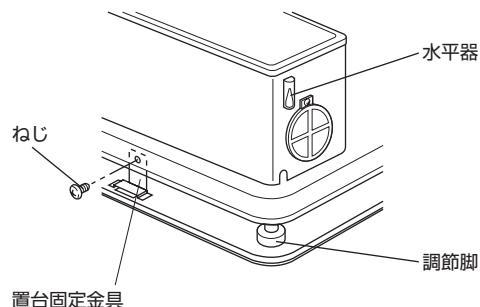
- 燃焼筒上ぶたをはずし、図のように燃焼リング（うえ）・（した）が正しく置かれているか確認する
- バッフルプレートが煙突接続口側で燃焼筒内のみぞにはめ込まれ、下にあたっているか確認する



## ■置台の取り付けと水平調節

- 置台の取り付けとストーブの水平調節は次のように行ってください。

- ストーブを置台に乗せる
- ストーブ背面の水平器のふりこが赤丸マークの範囲内になるよう、ストーブ4箇所の調節脚を回して調節する。
- 水平に調節できたら、置台固定金具・ねじ（4×10）で置台をストーブに固定する。



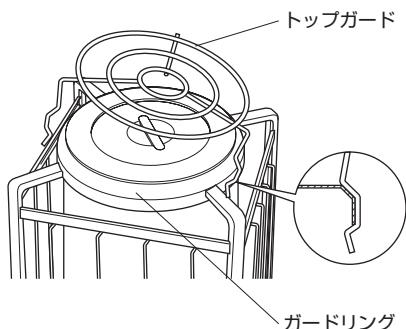
- ストーブは必ず水平に設置してください。水平になつていませんと、異常燃焼の原因になります。

# ■ 据付け つづき

## ■ トップガードの取り付け

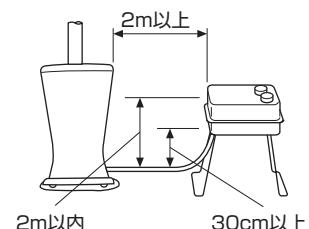
- ・トップガードの取り付けは、次のように行ってください。

- 1 トップガードの脚2本をガードリングに引っかけ、もう一方の脚を外側に広げながら引っかける



## ■ 油タンクの組立てと据付け

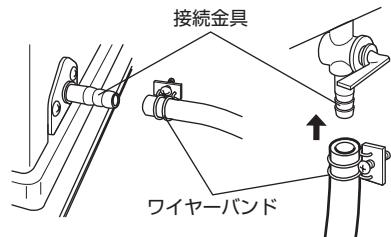
- ・油タンクを油タンク付属の取扱説明書に従って組立ててください。



- ・油タンクの据付けは、各地の火災予防条例に従ってください。
- ・油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に据付けてください。
- ・油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は、2m以上離してください。火災の原因になります。
- ・油タンクは、油タンクの油面がストーブ設置床面より30cm以上2m以内の高さになるように据付けてください。  
2m以上になると、油が油量調節器よりあふれ出ることがあります。

## ■ゴム製送油管の取り付け

- ゴム製送油管を接続金具の根元まで差し込み、付属のワイヤーバンドで固く締め付けてください。



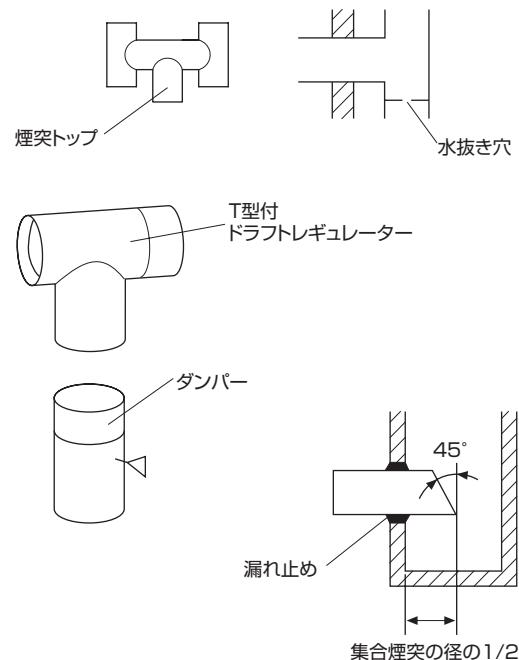
- ストーブ側接続金具にかぶせてあるキャップをはずすとき、内部の残油が出ることがありますので、布などを当ててはずしてください。
- ゴム製送油管の先端や途中を極端に曲げて配管しないでください。最小の曲げ半径は100mm程度以上としてください。  
ゴム製送油管にひび割れを生じて、油漏れの原因になります。
- ゴム製送油管は上に物をのせたり、重量物がのったり、空気溜りができるような形状にならないようにしてください。
- ゴム製送油管は、JIS S 3022「石油燃焼機器用ゴム製送油管」に合格したもの以外は使用しないでください。
- 送油管の屋外部分及び埋設部分は、防錆処理された鋼管、または銅管（外径8mm、肉厚0.8mm）を使用してください。ゴム製送油管は使用しないでください。
- ゴム製送油管は紫外線があたると劣化が早くなります。できるだけ日光にあたらない場所を選んでください。
- 金属製送油管で配管する場合は、切断、加工時の切りくずや切粉をきれいに取り除いてから配管してください。  
油量調節器から油があふれる原因になります。

# 煙突の取り付け

## ■取り付け場所の選定

煙突は排ガスを屋外に排出するとともに、燃焼に必要な空気を燃焼部へ供給する重要な役割をもっています。誤った取り付けは、異常燃焼や火災の原因になりますので、次のことを守ってください。(煙突の取り付けは各地の火災予防条例に従ってください。)

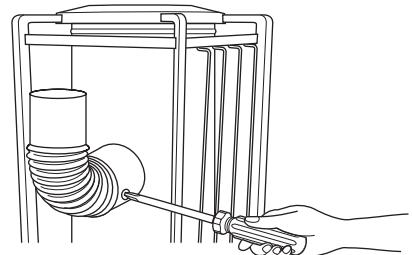
- ・煙突径は呼び径106(3寸5分)を使用してください。
- ・さびやすい素材の煙突は、腐食やさびにより煙突がふさがれたりしますので、使用しないでください。
- ・新しく煙突を設置する場合は、グラスウール断熱煙突を推奨します。
- ・横引き、立上がりの標準寸法は横引き約1.8m、立上がり約3.6mです。  
横引きが標準より長くなる場合は、その長さの1/2の立上がりを追加してください。
- ・横引きは、上り勾配になるようにし、途中で下向きにしないでください。
- ・煙突の先端は逆風や雨水が入らないように、図のようなトップを付けてください。トップは付近の最も高いものより60cm以上高い位置に設置してください。
- ・屋外立上がり部の接続はT曲がりを使用し、水抜き穴(6mmの穴)をあけてください。
- ・風の強い地方及び建物の関係から煙突を極端に高くする場合〔最大燃焼時のドラフトが-30Pa(-3.0mmH<sub>2</sub>O)より強い場合〕には、燃焼を安定させるためと、熱効率の低下を防止するために、図のようなT型付ドラフトレギュレーター やダンパー(別売部品)を使用してください。  
ダンパーの取付位置はストーブ本体から約50cm以上離れた室内の垂直部分に取り付けてください。
- ・集合煙突を利用する場合には、図のような差し込みかたをし、煙突が外れないよう固定してください。
- ・外付けの集合煙突や屋外での横引き煙突の場合、煙導部が冷やされ、結露しやすくなり、凍結して煙突を塞ぐ原因になります。必ず修正してください。(特に北側や日陰部の煙突)
- ・煙突の横引き延長が長いと、排ガス中の水分が結露して室内を汚したり、屋外で凍結して煙突を塞いだり、集合煙突から室内へ漏水することがあります。  
煙突の横引きが2mを越える場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。



## ■ストーブと煙突の固定

煙突をストーブに確実に接続するために、付属のねじ（4×10）で、ストーブの煙突接続口に固定してください。

- ねじで固定できないときは煙突を針金などでストーブに固定し、煙突がはずれないようにしてください。



## 試運転

試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備・運転・消火の手順は取扱編の29ページをご参照ください。

## 廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。  
リサイクルの支障となります。

# *MEMO*

*MEMO*

# *MEMO*

# 保証書(販売店様控)

型 名	KSH-10BS-K8 / KSH-8BS-K9			
★製 造 番 号	No.	保 証 期 間	1 年	
★お 客 様	★お買い上げ日	年 月 日	★販 売 店	住 所・店 名
	お名前	様		
	ご住所			
電話	( )	電話	( )	

★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

## -販売店様へお願い-

- (1) 保証書(販売店様控)及び次のページの保証書(お客様控)の★印欄に必ず必要事項をご記入の上、保証書(販売店様控)は切り取り線より切り取って保管し、次のページの保証書(お客様控)は本取扱説明書とともにお客様にお渡しください。  
※カーボン紙を差し込んで次のページに複写してください。
- (2) 保証書(販売店様控)に記載したお客様の個人情報は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のため以外には使用しないでください。

△  
切  
り  
取  
り  
線  
▽

修理メモ



# 保証書(お客様控)

本書は当製品に故障が発生した場合、お買い上げ日より表記期間中、本書記載内容に従って無料修理をお約束するものです。修理を依頼される場合は、お買い求めの販売店に必ず本書をご提示ください。

型 名	KSH-10BS-K8 / KSH-8BS-K9		
★製 造 番 号	No.	保 証 期 間	1 年
★お 客 様	★お買 上げ 日	年 月 日	住 所・店 名
	お名 前	様	★販 売 店
	ご 住 所	電 話 ( )	

★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

## 〈無料修理規定〉

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、当製品を無料で修理致します。お買い求めの販売店にご相談ください。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い求めの販売店にご依頼の上、出張修理に際して本書をご提示ください。なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居の場合は事前にお買い求めの販売店にご相談ください。
- ご贈答品等で本書に記入してあるお買い求めの販売店に修理がご依頼できない場合には、裏表紙記載のフリーダイヤルへご相談ください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 本書の提示がない場合、または必要事項の記載がない場合、字句を書き換えられた場合は有料修理になります。

●次の場合は保証期間内でも有料修理になります。

- (1)住宅用途以外で使用した場合の不具合
- (2)使用者が適切な使用、維持管理等を行わなかったことに起因する不具合
- (3)一般家庭用以外に使用したことに起因する不具合
- (4)専門業者以外による修理、改造等に起因する不具合
- (5)弊社が定める工事説明書等に基づかない施工、専門業者以外による移動・分解等に起因する不具合
- (6)建築躯体の変形等、住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせ等の経年変化、または使用に伴う摩耗等により生じる外観上の現象
- (7)海岸付近、温泉地等の地域における腐食性の空気環境に起因する不具合
- (8)動物や昆虫等の行為、及び植物の侵入等に起因する不具合
- (9)火災・爆発・凍結等の事故、台風・落雷・地震・噴火・洪水・津波等の天変地異、または戦争・暴動等の破壊行為による不具合
- (10)消耗部品の消耗に起因する不具合
- (11)公害による不具合
- (12)電気・燃料等の供給トラブル等に起因する不具合
- (13)指定規格以外の電気・燃料を使用したことによる不具合

修理メモ

### ●お客様へ

- この保証書は本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い求めの販売店、または裏表紙記載のフリーダイヤルにお問い合わせください。
- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

お買い上げ日	年      月      日
販売店名	
	電話番号

●記入しておくと修理などの依頼のときに便利です。

一般のお客様から  
のお問い合わせは、  
フリーダイヤルへ

0120-925-339  
携帯電話からは 0570-666-339  
(通話料金がかかります)

お客様から取得いたしました個人情報  
は、お客様へのお問い合わせ対応を目的として利用し、適切に管理します。  
修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・  
提供いたしません。

※電話番号をよくお確かめのうえ、おかげ間違えのないようにお願いします。

修理に関する  
お問い合わせ

24時間365日受付

商品に関する  
お問い合わせ

平日 8:10~18:00  
土日祝 8:10~17:00

## 愛情点検



### 長年ご使用の石油暖房機の点検を！

こんな症状は  
ありませんか？

- 油漏れがある。
- 煙が出たり、強い臭いがする。
- 運転中にこげくさい臭いがする。
- 異常な音や振動がする。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故防止のため、コンセント  
から電源プラグを抜いて、必ず販売  
店に点検・修理を依頼してください。

住宅設備機器総合メーカー  
株式会社 長府製作所

# CHOFU

本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1